



厚真町高齢者大学生徒会長
 Vol.36 きのした やえこ
 木下 八重子さん

にこやかな表情のぬいぐるみたちが、居間に通された来客を優しく見つめます。ひと針ごとに優しさを込めた木下さんのお手製です。「家に閉じこもるのが嫌いなので」。社交的で、平成30年から厚真町高齢者大学で生徒会長を務めています。「元気の源は、人との出会い」と話す木下さんの自宅を訪ねて話を伺いました。

“ 出会いを大切に町を元気に ”

江別市出身で、20歳の成人式直前に厚真町に嫁ぎました。ガタガタとバスに揺られて当時の早来町まで移動し、そこからトロッコのような小型軌道に乗り換えて厚真に来たそうです。「当時は、民家も少なかったの。家庭用の電気が開通して間もなくでした。寒くてびっくりしたのを覚えています」。結婚生活のスタートと同時に、人との交流を持つため、積極的に地域と関わりました。厚真町婦人団体協議会では10年以上も会長を務め、今も続ける交通安全指導員は半世紀が経ちました。

町高齢者大学で生徒会長に就任した直後は、胆振東部地震とその後のコロナ禍で2年間、活動中止を余儀なくされました。「仕方がないことだけれど、皆さんと会えなかったのが、本当に寂しかったわ」。それだけに、昨年5月、3年ぶりに開催された入学式は、喜びもひとしおでした。「入学式の挨拶を楽しみにしているよ」、「木下さんは、私たちの手本。元気でいてね」などと声を掛けられ、一人ひとりに「一緒に楽しみましょうね」と話しかけました。人の繋がり大切さを再確認しました。

趣味は旅行です。80歳までと決めた海外旅行では、40カ国以上を訪れました。中国・万里の長城やエジプトのピラミッド、フランスのルーブル美術館。自分の目で「本物」を体感できることが旅の醍醐味と話します。本棚には、旅先の書籍が並びます。

令和5年度の町高齢者大学は、間もなく始まります。震災5年目の今年、木下さんは思いを胸に秘めていました。「町長を講師に招き、変わるうとしている町の熱意を肌で感じ、町づくりのため協力したい」との思いです。

「高齢者大学は、社会とつながる接点の一つ。力を合わせて元氣な厚真にしていきます」。

厚真で暮らす人、働く人、応援してくれる人、訪れる人・・・
 みんな、みんな、**ATSUMA LOVERS**